

ひとはくキャラバンを基盤にしたプロジェクト

1992年の開館以来、ひとはくの活動は研究や資料収集、展示にとどまらず、多岐に渡っています。なかでも、2002年度から本格的に始まった「ひとはくキャラバン」は、館員が県下各地に出張し、セミナーや展示活動などのプログラムを実施するもので、ひとはくの主要な活動の一つになっています。外に出かけていくことで、より多くの人にひとはくを知っていただきたいのはもちろん、各地の県民や学校施設、行政の方々とともに地域の自然・環境・文化について学習することで、それらを活かし楽しむ人々を増やしていくことが、キャラバンの大きなねらいです。開館20年目となった2012年には、移動博物館車「ゆめはく」が誕生し（写真1）、遠方の施設にも来訪しやすくなりました。また、ゆめはく内でのコンパクトな展示により、効率よく学習プログラムを実施することが可能になりました（写真2）。同年には、本館2階にキャラバンでの使用を想定した標本や資料を展示した「ひとはく多様性フロア」を開設し、コンテンツの充実化も図っています。

一方、県内でのひとはくの知名度はまだそれほど高いとはいえ、地域の方々とともにじっくり学習する機会もそう多くはありません。そこで、一定の期間、特定の地域に集中的に出かけていくことで、新たに地域との関係を築いていこうと、「ひょうご・ふるさと

ミュージアムプロジェクト」が2015年度に立ち上がりました。まだ埋もれている地域の魅力を、地域内外の方々と共に共有し、新たな関わりが生まれることを期待しています。

淡路でのプロジェクトの試行

兵庫県には自然豊かで魅力的な地域がたくさんあります。多様な化石や海岸植物、多くのため池、ダイナミックな渦潮などで特徴づけられる淡路はその一つです。これまでのキャラバン先や県内での関係構築の状況を考慮し、検討を進めた結果、今年度より一定期間に渡り、淡路の自然の魅力をさらに発掘すべく、プロジェクトを試行することとなりました。

今年度はまず、11月7日に南あわじ市の国立淡路青少年交流の家で開催された「淡路うずしおフェスティバル」にゆめはくで出展し、淡路にちなんだ展示や体験プログラムを実施しました。淡路には、アンモナイトや恐竜などの多様な化石が産出するほか、砂浜に生息するオオヒョウタンゴムシやヤマトマダラバッタ、アオザメやチリメンモンスターなどの海に関連する生き物も特徴的です。これらの実物標本や模型を展示し、その魅力を研究員が解説しました（写真3）。化石の展示や解説では、ひとはく連携活動グループの「南あわじ地学の会」の皆さんにもご協力いただきました。研究員による石こうを使っ

た化石のレプリカづくりも、子どもたちに好評だったようです。

翌11月8日は、交流の家に隣接する吹上浜で、地層観察や漂着物を採集するセミナーを実施しました。吹上浜は、海浜植物をはじめ、貴重な昆虫や水生生物などの生息場所になっている美しい砂浜で、古代の海底土石流の跡の化石「流痕」のような特徴ある地層など、学習素材が豊富にあります（写真4）。砂浜に運ばれた漂着物を、海の環境を知る題材として活用することもできます。当日は南あわじ市内から参加があり、ひとはく研究員とともに、楽しみながら学習しました。漂着物のセミナーでは、砂浜にあるものを参加者が思い思いに拾ったのち（写真5）、人工物や自然物などのいくつかのカテゴリーに分類し（写真6）、それらの正体を図鑑を使ってみんなで調べました（写真7）。同じ石や貝殻でも、よく観察し調べると、実に様々だということがわかります。さらに、ラベルをつけて標本にし、箱に入れ

て「ミュージアムボックス」が完成しました（写真8）。調べて終わりではなく標本にすることで、事後学習での活用が期待できます。

今年度の取組みは試行的に実施したのですが、淡路の自然の魅力の紹介や地域の方とじっくり学習する機会を今後も広げていきたいと思っています。

プロジェクトの今後の展望

来年度以降は、研究員による淡路各所でのセミナーの実施や、地域で関心の高まっているテーマに特化したキャラバンなどを進めていく予定です。また、ひとはくでは、兵庫県下で活躍する市民・団体が、地域の自然・環境・文化に関わる活動の成果を発表し、相互に交流するイベントを10年前から設けています。今後、新たに出会った方々とこのような機会を地域でつくっていけたらと考えています。

上田萌子（自然・環境マネジメント研究部）



写真1 「ゆめはく」で小学校に来訪



写真3 うずしおフェスティバルでの展示解説



写真2 効率的に展示や観察ができる車内



写真4 吹上浜の地層



写真5 漂着物の採集



写真6 漂着物の分類



写真7 漂着物の同定



写真8 漂着物を標本にしたミュージアムボックス